

釧路新郷士芸術賞に輝く

受賞者の横顔

〈中〉

優れた演奏表 現法と感覚

地元の若手演奏家の中で最も期待されている一人。釧路湖陵から武蔵野音楽大学器楽科に進み、卒業後釧路市に戻り、ピアノ教師として音楽教室を開く一方自らも演奏者としてリサイタルや、中央演奏

家のコンサートで伴奏を務め、協会第五回高後賞を受賞して、など精力的な音楽活動が続いている。釧路新人演奏会特賞、五十六年には釧路音楽味を抱いたのは幼稚園の時。入学して本格的にピアノを習

着実に多彩な演奏活動

後進の指導にも情熱燃やす

はじめ、教育大学釧路分校教授の荒谷宏氏に師事、ピアノを中心とした生活が始まった。ピアノリストをめざして武蔵野音楽大学器楽科に入学、そこで丸山徹薫教授、チェコ

地元に定着したコンサート活動を続ける桃井さん

からの客員教授であるヤンホラク氏から演奏表現技法、感覚などを学んだ。五十八年にはオーストリア・ザルツブルグで開かれたモーツアルテウム国際夏期講習に参加、ザルツブルグ音楽大学の校長を務めたカールゼーマン教授から指導を受けた。

「ピアノは地道な練習の積み重ねばかりで、子供の頃は他の事にも興味を覚えて、つい

「ピアノは地道な練習の積み重ねばかりで、子供の頃は他の事にも興味を覚えて、つい

オーケストラと共演したい

「ピアノは地道な練習の積み重ねばかりで、子供の頃は他の事にも興味を覚えて、つい

ピアノ

桃井 信子さん (三)

釧路市鶴ヶ岱三の二〇

アパシ君

木崎征夫

